

問題行動の機能的アセスメントと エコロジカルな対応プログラムの作り方

名東福祉会理事長 加藤久和

知的障害者は、特定の事柄が起ると、強く叫んだり、自分の頭などを叩いたりするような行動を示すことがあります。これらは「問題行動」といわれます。問題行動の中には本人の生命を危うくするようなものもあり、どうしても解決しなければならぬ問題も多く見受けられます。

問題行動は簡単に解決する問題ではありませんが、今回紹介する機能的なアセスメントを行いそのアセスメントに基づいて適切に対応することができればほとんどの問題が解決することも事実です。

現在、知的障害者の問題行動に対するアプローチとしては、代替行動を形成する方法や、環境をコントロールする方法が一般的です。今回は知的障害者の問題行動に対する機能的アセスメントとプログラムの実施方法を紹介してみます。

■機能的アセスメントとは

問題行動がどんな環境の中で、どんな先行事象に続き、どうやって起こされるか、またどんな後続事象が伴っているのかを分析・評価することを「問題行動の機能的アセスメント」といいます。機能的アセスメントは、次の3つの要素で構成されます。

- (1) インタビュー
- (2) 行動観察
- (3) 環境と後続事象の分析

インタビューは支援スタッフや教師、親など、問題行動を持つ人とともに生活している人に行います。施設においてはケース会議で他の支援スタッフに行うこともインタビューに含まれます。

行動観察は後述する様式に従い、各問題行動ごとに、行動・先行事象・スタッフの受け止め方・後続事象の各カテゴリについて観察記録を実施します。この観察記録によって、プログラムの妥当性が保たれます。

問題行動の機能的アセスメントを行うことによつて、いろいろなアウトカムを得ることが出来ます。

- (1) 問題行動の明確な定義
- (2) 問題行動の先行事象の特定
- (3) 問題行動の後続事象の特定
- (4) 対応方法の仮説の立案

先行事象(Antecedents)と後続事象(Consequences)を「い」と「は」は聞き慣れないことばだと思えます。

行動はけつして環境と無関係に維持さ

れているものではありません。行動に先行する事象や、生じた行動によつてもたらされた環境の変化がそれぞれ行動のありように大きな影響を与えます。例えば作業の材料がなくなると叫んだり暴れたりする問題行動が現れるというような場合、作業の材料が無くなるのがこの行動の先行事象となります。そして支援員が集まって話しかけるということが起っているとすると、この場合の後続事象は支援員が話しかけるということとなります。

行動分析学では行動を単独のものとして環境から切り離して考えるのではなく、先行事象と、行動そのもの、行動が生じた後で起る環境的な変化をワンセットでひとつの行動とみなします。機能的アセスメントを行うことによつて、どういった対応が考えられるのかを系統的に整理することができ、対応方法の仮説を立てられるようになります。

それでは、つぎに機能的アセスメントの3つの要素について述べることにしましょう。

■インタビュー

「い」でいうインタビューはいわゆるカウ

ンセリングのアプローチとは異なります。問題行動がどんな行動であるのか、またそれがどんな環境で生起しているのか、そしてどんな後続事象によって問題行動が維持されているかに焦点をあててインタビューを行うことになりません。インタビュの相手は時には知的障害者本人とすることもありますが、多くの場合支援スタッフや教師、親になります。

(1) 行動の定義

問題行動はできるだけ客観的に記述されることが必要です。どういった行動がどんな場面で生起するのか、その頻度はどの程度なのか、持続している期間についてはどうか、問題行動の強さはどの程度かなどを調査します。

問題行動は時としてひとつの行動だけではなく、いろいろな行動がチェーンのようにつながることがあります。そういうことがあれば、どこからどこまでを対象にするのかについても確認しておきます。

(2) 問題行動のトポグラフィ調査

問題行動の先行事象は様々なものがあります。施設全体のプログラムの流

れや所属している人の数の多少というようなこと、気温やその日の体調、投薬の欠落などいろいろな要素が考えられます。そこで人の以下のような情報を収集します。

- ・投薬状態
- ・医学的所見
- ・睡眠サイクル
- ・栄養学的評価
- ・デイリースケジュール
- ・所属しているグループの人の数など
- ・どのスタッフといるときなのか

これらの情報はエゴジカルな情報とか、問題行動のトポグラフィ情報といわれます。先行事象の調査を行う前に、これらの情報については押さえておかなければなりません。

(3) 先行事象のアセスメント

先行事象を絞るために以下のようなインタビューを行います。

- ・問題行動が生起する時間
- ・物理的なセッティング
- ・関連する人々
- ・関連する活動内容

問題行動が場面と無関係に起こること

は希です。ある一定の法則が見つかることが多いと思います。問題行動の発生時間や発生頻度を調査することによって、問題行動の先行事象を絞り込むことができます。

(4) 後続事象の特定

問題行動は、結果によって維持されていることが多々あります。支援スタッフの注目を集めることができたり、難しい課題を避けることができたりすることもあつて、自己刺激的行動をすることによって何らかの快適な刺激が発生し、それによって行動が維持されているということもあります。従つて、問題行動の後続事象を調査するのは、問題行動の有効性を調査することでもあります。

(5) 代替行動レパトリー調査

問題行動への対処は、他の代替行動を置き換えることが中心となつていきます。その意味では代替行動のレパトリーにどういったものがあるのかを押さえておく必要があります。

(6) コミュニケーション能力の調査

問題行動は他の有効なコミュニケーション

ン方法をとれないために起こることが多く、問題行動が唯一のコミュニケーション方法であるような場合もしばしば観察されます。知的障害者のコミュニケーションスキルを調査することによって、代替行動の選択肢が明らかになります。

(7) 有効な支援方法の特定

支援スタッフが持つている支援方法を特定しておかなければなりません。

(8) 強化子の調査

強化子とは特定の行動に随伴された場合に、その特定の行動の頻度が増加する働きのあるものをいいます。強化子は人によって異なりますから、どんな強化子が有効なのかはわかりません。あらかじめ本人にとつてどんな強化子が有効なのかをインタビューで調査しておきます。

(9) プログラムの適応歴の調査

大人の知的障害者の場合、問題行動に対してそれまで何の対応もしてこなかったというようなケースは希です。これまで行ったアプローチを調査し、どうい方法が有効であり、どうい方法が失敗であったのかを調査します。

■行動の観察

支援スタッフへのインタビュだけで有効な手だてを構築することに至らない場合があります。そんな場合に問題行動を直接観察することによって、妥当性のある解決方法が見つかることがあります。ここで、オニールらが行った観察記録の様式を紹介しましょう。

観察フォームは、時間ごとに行動を記録できるようになっています。各問題行動には

- (1) 行動名
- (2) 先行事象
- (3) スタッフの受け止め方
- (4) 後続事象
- (5) コメント

印象深いのは「スタッフの受け止め方」を記入する欄がもうけてある点です。問題行動の中には、それを問題と見る側の問題ということもあり得ます。このフォームを使用すれば、観察記録者の視点や感じ方による問題も同時に与えられることができます。

■機能分析

問題行動がなぜ維持されるのかについてはいろいろなパターンがあります。自己刺激的行動、社会的な注目を集めるため、ある特定のモノや行為に対する要求行動、特定の活動の回避であったりします。

機能アセスメントの分析の段階では、必要ならば特定の後続事象が問題行動を維持しているかどうか妥当性について検証します。方法としては、ABAデサインと呼ばれる方法やマルチプルベースラインデサインという方法があり、これらの実験デザインを用いて特定の後続事象が特定の問題行動の出現と関連があるかどうかについて検証することができます。本来は、カンに頼って判断を下すのではなく、このような研究デザインを用いて根拠に基づいてアセスメントを行うべきです。

問題行動がもたらすリスクについてはきちんと押さえておく必要があります。問題行動の対象者以外の安全性の確保は最優先課題です。また、対象者本人の問題行動によるリスクについても評価しておきます。ヘッドギアなどのツールの採用の検討についても行っておきましょう。

見逃されがちなのがプログラム終了の基

図1 機能的アセスメントのための行動観察フォーム

Name: Joe		Functional Assessment Observation Form																											
Starting Date: 3-16		Ending Date: 3-17																											
Time	Behaviors						Predictors						Perceived Functions						Actual Conseq.										
	Shout when	Shout when	Shout when	Shout when	Shout when	Shout when	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	Attention	
8:50-9:25 Reading	1	2	1	1			2	1																					Read on own
9:40-10:25 Lunch	3	4		12	3	4																							Read on own
10:30-11:15 Class																													W.G.
11:30-12:05 Mail	4	7	16	4	7	7																							18 - seat work
12:45-1:30 Lunch																													S.W.
1:45-2:30 Social Studies	8	13		8	13	13																							
2:45-3:30 Science	17	9		16	17	17	16																						
3:45-5:30 P.E.																													P.S.
Totals	13	4	9																										
Events:	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25																												
Date:	3/16												3/17																

準です。どの程度の行動改善が見られたらプログラムを終了するのか、どれくらい対応を行ったら終了するのか、再評価の時期、方法についてあらかじめ明らかにしておくといよいでしょう。

■支援プログラムの実際

機能的アセスメントに基づきプログラムを作成します。プログラムの対象となるのは、その問題行動が発生している環境設定すべてということになります。

- (1) スタッフの行動
- (2) 物理的な環境
- (3) 採用されているカリキュラム
- (4) 本人の投薬計画
- (5) 日常スケジュール
- (6) 支援方法の見直し
- (7) 強化方法

などがプログラムの対象となります。特に、スタッフの支援方法を変えることがすばやく問題行動の消失に至ることも多いものです。問題行動が起る前の環境に注目することから、これらの方法はエゴジカルアプローチとも呼ばれています。

プログラムの導入に当たっては、プロ

ラムが問題行動を持つ人自身の価値観に合致したプログラムであるかどうかを検討されなければなりません。また、その施設がもつ人的・物的な資源にあわせてプログラムになっているかどうかについても検討が必要です。

■問題行動の「有効性」をなくすこと

問題行動を消去するために、オニールらが提唱している方法は問題行動の効果を消失させることに他なりません。

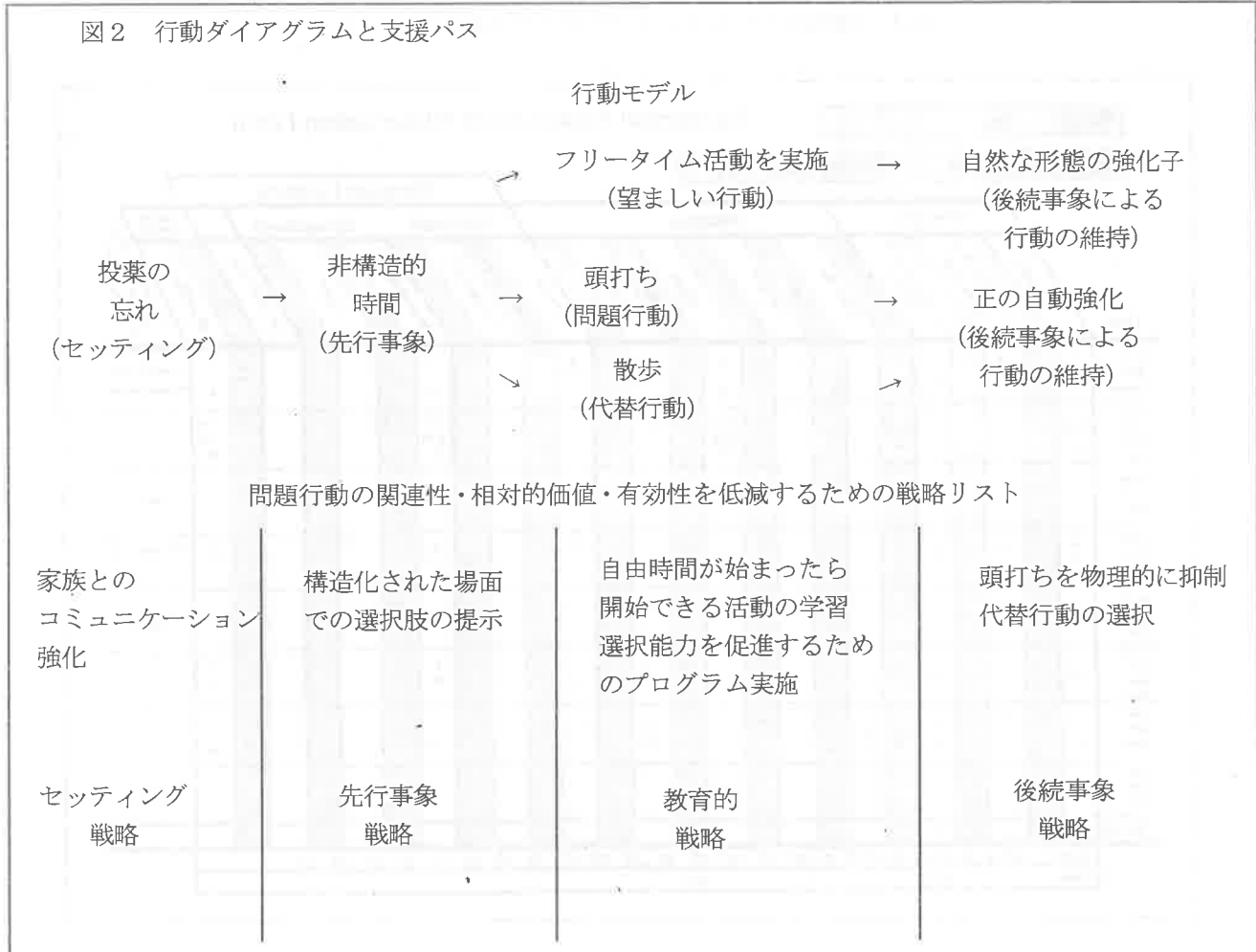
オニールらの研究では、問題行動との関連性において以下の4つの戦略ごとにプログラムを計画することを推奨しています。

- (1) 環境やセッティングに関する戦略
- (2) 先行事象に関する戦略
- (3) 教育方法に関する戦略
- (4) 後続事象に関する戦略

図2は、ある対象者へのアプローチを図式化したものです。このように問題行動を構造化することが機能アセスメントの特徴です。プログラムの構築に関して手続きをまとめると以下ようになります。

- (1) 先行事象、問題行動、随伴事象

図2 行動ダイアグラムと支援パス



を図式化する。

- (2) 代替行動を決め、代替行動の後続事象についても決めておく。
- (3) 問題行動との関連性が低い環境をつくる。
- (4) 問題行動の相対的価値を低くする。
- (5) 問題行動の有効性をなくす。

■問題行動の図式化

図式化の方法はいろいろありますが、できるだけシンプルに表現します。行動の観察フォームを用いればこの作業は案外簡単に言うことができます。

■代替行動の形成

次に、代替行動の形成についてですが、このあたりの実践についてはこれまで日本でも行われてきました。効果的な行動支援プログラムをつくるには、問題行動を起こさず、かつ、本人が望ましい行動に従事できる時間をできるだけ増やすように支援することです。

■問題行動との関連性が低い環境

問題行動との関連性が低い環境づくりとは何でしょうか。また問題行動の有効性を低くするような手続きとはなんで

でしょうか。

例えばたいくつな状況では大きな声を出したり服を脱いで注目を浴びるような行動をとるようなケースでは、問題行動が生じやすい時間帯をより活動的で興味のあるイベントを実施する時間帯に変えることによって、問題行動との関連性がない状況を生み出すことになりす。

■問題行動の相対的価値を低くする

問題行動の相対的価値を低くすることとは「機能的等価行動の形成」と呼ばれています。例えばおもちゃをほし時に大変アグレッシブな行動を起すことよって目的を達成していることもに対してサインランゲージを学習させた場合、ほとんどアグレッシブな行動の頻度がゼロに近くなりました。サインランゲージを使うことの方が要求が満たされるためにはるかに省エネルギーであり、問題行動よりも価値が高いことになるからです。

■問題行動を消去する

問題行動が有効である限り、行動は維持されます。問題行動がある特定の随伴事象によって維持されているとしたらその随伴事象をストップすれ

ば行動が維持されなくなるということもあり得ます。ただし、この方法は非常に危険な局面を生み出すことがあります。また、強化を消去することは、いっほどは簡単ではありません。例えば暴れると支援員が近づいてくるという場合、確かに支援員の接近が行動を維持しているかもしれませんが、実際には無視することは困難です。極度の自傷行為に対して介入しないでおくことも無理でしょう。一般的に問題行動の後続事象のコントロールによって問題行動の変化を期待することは地域生活のセッティングでは極めて難しく、他の方法による方が効果的です。

■さいごに

オニールたちの提案でもっとも特徴的なのは問題行動に対する対処を個人と個人の関係にとどまることなく、問題行動の解決は「環境」全体の課題ととらえていることです。環境全体の問題ととらえるところから問題行動のチームマネージメントが始まります。

本人にとつても望ましく、施設の支援スタッフや家族にとつても望ましい代替行動を選択できるようにすることを強調していることも権利擁護時代に合っている考え方であると思われす。

この理念を念頭に置いて機能的アセスメントから行動観察、プログラムの作成まで流れができています。問題行動が知的障害者個人の問題にとどまる限り、問題行動を有する知的障害者にとつて質の高い地域生活を送るための方法は見いだすことができません。問題行動は支援スタッフや知的障害者に関わりをもつ人全体の問題でもあります。

問題行動の機能的アセスメントとプログラム構築について早足で眺めてきました。問題行動の機能的アセスメントに関し、これだけの紙面で簡単に述べることは困難ですが、おおまかな構造については理解していただけたのではないかと思われす。知的障害者の問題行動は、障害が重くなればなるほど頭在化しやすいものです。しかし、問題行動を維持しているのは多くの場合環境側であり、問題行動を低減することの本質は環境設定の適切な分析と改善ではないでしょうか。そう思つて問題行動に立ち向かうと、問題行動の姿が違って見えてくるのではないかと思われす。

Functional Assessment and Program Development for Problem Behavior
O. Neill, R.E

わが子の白内障手術記

天白ワークス家族会 加藤佳子

わが息子25歳。生後5ヶ月よりアトピー性皮膚炎で悩まされてきました。最近では、落ち着いてきたもののアトピーの痒さから顔を掻いたり、叩いたりしたため、両目とも白内障になってしまいました。特に左目がひどく0.01という視力しかありません。日々の生活では、ただでさえイライラ度の強いわが子は見えない辛さから、より不安定になっていました。

目の手術を決意

手術は急遽病院を名古屋第二日赤病院に替え、6月13日入院、14日手術となりました。

手術の1週間前、術前検査で、目のエコー、眼球の大きさなど目に関する検査を行いました。目の中にいろいろ器具をあてたりしたのですが難しくこなし、肺活量、心電図なども無事通過。採血では、アトピーで皮膚が硬くなっていて血管を出すのに大変でした。しかし男性の検査技師の方2人で対応して下さったので大声をひとあげしたものの、暴れる事もなくクリア。本人は、入院、手術という事は、きちんと理解できていなく、「お母さんとお泊りだよ。ベッドで寝

るの。」と言いつけ入院の日を迎えました。

当日は、主人も娘も仕事であてにできず、タクシーを呼び家を出ました。息子は、タクシーに乗れるのが嬉しいのか緊張感無し、母といえはこれからどうなるか、こうして、ああして、あんなつたらこうしてと頭の中でシュミレーション。大袈裟かもしれませんが自閉症のわが子との5泊6日の闘いになるのではと不安でいっぱいでした。

ちよつとした予定変更にもクラクラ

病院では個室をお願してあったのですが、1日だけ2人部屋で我慢していただけないかとの事。頭の中は、真っ白。今晚どうなる事か。同室の方に障害の事を説明しうるさくご迷惑をおかけしますと挨拶し入院スタートとなりました。

さて、本人は、パジャマに着替えベットの上で神妙な顔で患者になりきって、持ってきた電車の本、自動車の本、新聞などを見て、入れかわりたちかわり来る看護士さん、お医者さんに話し掛けられて、オウム返しで対応。看護士長さんには、自閉症という障害の事、問題行動、パニック、言葉のかけ方など息子への対応をどのようにしていただくと良いのかカードに書きお渡ししました。快く理解していた

だけで看護士さんの関わりも本人にとつて快適なようでした。

いよいよ手術

手術前夜、夕食9時以降水も飲めなくなり翌日の午後2時からの手術を待つ事になりました。食べる事の楽しみな子ですが、水も食べ物も欲しがらず助かりました。手術着に抵抗なく替え、注射も暴れず打つ事ができ、ストレッチャーにも抵抗なく乗りいくつもの病棟を通り抜け中央手術室に妹と母に見送られ顔は引きつっていたもののおとなしく看護士さんが入っていききました。

待つ事2時間半、手術が終わって酸素マスクをつけ、目にはガーゼがあてられ、点滴と痛々しい姿に親として申し訳なさで胸が苦しくなりました。本人意識ははっきりして「マクドナルドのハンバーガー食べるの」の一言。目に手をやらないように、最悪動くようであれば拘束をして頂いてとも話をしていました。が静かに寝ていてくれ助かりました。

でも、やっぱり一暴れ

その夜手術をしてくださった先生から手術の経過を聞き、暴れる事はなかったとお聞きしホットしたところへ先生から一言最後に麻酔の

チューブを抜く時に抓られましたと手の甲の傷を笑って差し出されました。がっくり。すいませんとお詫びでも頑張ったので先生お許しあれ。

意外に安定していた入院生活

朝の検温から始まり病院の規則正しい流れにすっかりはまりました。付き添いの母は、日頃の睡眠不足を解消できるほど寝せてもらい、本も読む事もできました。5泊6日の入院生活、手術後は、売店に行ったり、病院内のレストランに行ったり、自動販売機で飲み物を買ったりして楽しんでいました。

今回の入院では、インホームドコンセントとして「患者様入院計画表」を頂き入院の日から退院までの経過が示されていて安心して過ごす事ができました。いかに患者さん主体の医療、医療ミス防止への細心の注意等はかられているのかを痛感しました。担当医師、麻酔の医師、看護士、薬剤師、それぞれ手術前に病室に見え納得がいくまでの説明をして同意書に捺印という手順は、対応の難しいわが子をいただくのに大変助かりました。「案ずるより産むがやすし」ほつとして荷物を抱かえタクシーに乗り岐路につきました。

週末、天白ワークスがカフェに変身

一人通勤が難しい利用者を迎えるに、毎日午後四時少し前から親達为天白ワークスに集まります。数年前、寒さに震えながら待っている親を見かねて施設が企画して下さり「週末喫茶」が生まれました。

冷暖房完備のクッキー室が喫茶店になり、にこやかな扶紀子さんがウエイトレスを務めてくれます。コーヒーや紅茶には、これも



職員企画の手作りケーキやゼリーなどがついてくるのも楽しみの一つです。

今では厳寒と酷暑の頃の週末合わせて十日位でしょうか、ワークスの終了時刻まで45分ほど開店しています。いつもより少し早めにお迎えの親やボラさん、時には来訪者も一緒になって、ホッとするひとときを共有しています。

(山)

編集部コメント

「施設が喫茶店になる」ということを読んで、施設は実に多様な社会資源に成り得るんだなあということを感じました。「インフォーマルなサポートネットワークの形成に資する」というと、いかにもやぼったいわけですが、こうした活動を続けていったその先に、そうした人々の出会いやつながりが生まれていくんだと思います。それにしても、名古屋地域は喫茶店が人気がありますよね。

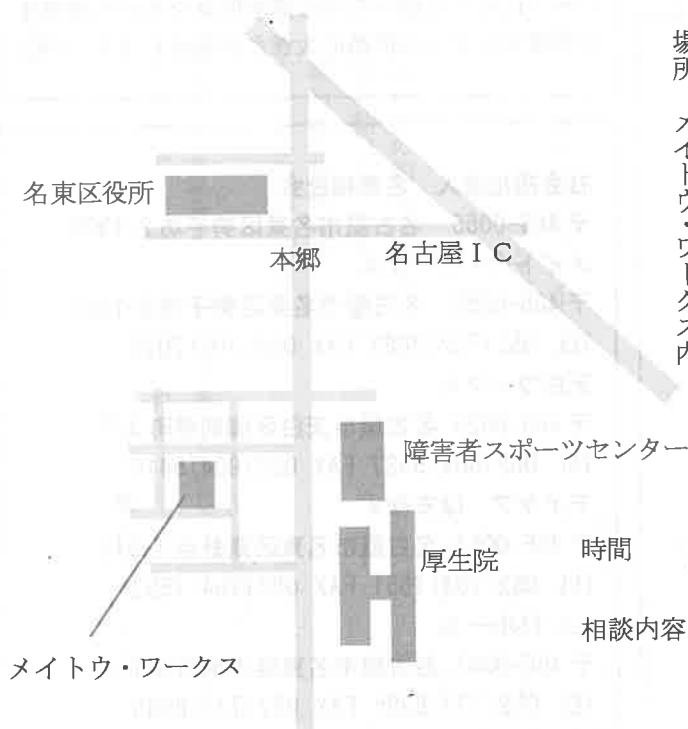
お困りのときは

名東区障害者地域生活支援センターへ

当センターでは名東区在住の障害をお持ちの方のご相談に応じ、自立と社会参加のお手伝いをいたします。お気軽にお問い合わせ下さい。

場所 メイトウ・ワークス内

時間 午前9時から午後6時
土・日も受付します。
相談内容 療育相談・就労相談
生活全般に係わる相談
各種福祉サービスの紹介
担当 加藤・長谷



場所 メイトウワークス内

〒名古屋市名東区勢子坊2丁目1303

電話 (052) 702-2863・FAX (052) 701-2079

メールアドレス m-works@se.starcatt.ne.jp

BUSINESS

NEWS

■レジデンス日進の工事いよいよスタート

平成14年8月29日 メイトウ・ワークスにおいて、入札説明会が開催されました。知的障害者入所更生施設「レジデンス日進」は国庫補助事業で整備されます。この後、入札を行い工事着工へと進んでいきます。

■支援費説明会の開催

平成14年9月15日 13時より名東区役所において、いよいよ支援費説明会が開催されます。区内に在住の身体障害者・知的障害者・~~精神障害者~~が支援費の説明を受けることとなります。今後、このような3障害合同のイベントが増えてくることになるでしょう。

■9月2日 各施設防災訓練

ご寄贈・後援会入会
ありがとうございました。

◎寄附金ご入金

名東区手をつなぐ育成会 様
寺西 しづ 様
こもれびの会 様
澤田 昭勝 様
近藤 政子 様

◎後援会費ご納入

竹内 信枝 様
近藤 加津子 様

後援会費郵便払込番号0880-8-9556
社会福祉法人名東福祉会メイトウ・ワークス
(通常払込料金加入者負担)

編集室

●野方三つ池のあたりを散策しました。整備された大きな公園に接する池の片隅には葦が生い茂り、耳を澄ませばカワセミの音が聞こえてきます。竹林を抜けると長閑な景色が広がり、ぶどう畑や小さな教会に出会います。森の向こうからトトロでも現れてきそうなそんな雰囲気はこの地に、来年の今頃は「レジデンス日進」の建物が現れていることでしょう。地域の方々に愛されるような施設を…などと思いを巡らし、今からワクワクしています。(よ)

●現在、十分な支援を受けられないまま在宅での生活を余儀なくされている方が少なくありません。こういった人たちの地域生活を支援するために、地域生活支援センターはこちらから出向いていってニーズをつかむことが必要です。ところが、支援センターを開設してみると、次から次から電話がかかってくるので2名の担当者はてんてこ舞い。メイトウ・ワークスだけではなく、他の社会資源を利用しようにもどこも満員。地域生活を支えるための社会資源の少なさに、愕然とする毎日です。

これまでは施設ですべて行わなければなりませんでしたが、今後、NPOや企業、高齢者福祉サービス事業者等に社会資源の開発の可能性があります。ニーズに応じた様々な社会資源開発を含めた地域生活支援センターの使命の大きさを痛感します。(久)

社会福祉法人 名東福祉会

〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊2-1303
メイトウ・ワークス

〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊2-1303
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079

天白ワークス

〒468-0023 名古屋市天白区御前場町327
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416

デイケア はまなす

〒465-0054 名古屋市名東区高針台1-911
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

こいけホーム

〒465-0047 名古屋市名東区小池町468-1
TEL 052(777)8385 FAX 052(777)8385

天白ホーム

〒468-0021 名古屋市天白区平針字大根ヶ越
141-3

TEL 052(807)1578 FAX 052(807)1578